

目次

はしがき

第1章	正義論へのいざない	1
1	正義思想の歴史的展開	1
2	正義の定義・場面・研究方法	8
3	正義の構造	13
4	本書の構成	16

第1部 ベーシックス

第2章	正義にかなった社会とは何か	23
1	理論の背景	23
2	原初状態	25
3	正義の二原理	30
4	政治的リベラリズム	39
5	諸人民の法	43
第3章	幸福を増大することが正義なのか	47
1	功利主義の特徴づけ	47
2	善をめぐる問題	49
3	正をめぐる問題	55
4	功利主義に対するおもな批判	59

第4章 何を分配するか————— 66

- 1 センの問題提起 66
- 2 資源平等主義 69
- 3 厚生への機会平等主義 72
- 4 ヌสบアウムのケイパビリティ・アプローチ 76
- 5 個人多様性をめぐる攻防 78

第5章 どこまでが個人の責任か————— 84

- 1 平等論における責任 84
- 2 運の区分をめぐって 87
- 3 屈辱性批判と過酷性批判 92
- 4 多元主義的運平等主義とその問題点 95
- 5 運平等主義の刷新 98

第6章 再分配は平等をめざすべきか————— 104

- 1 平等とは何か 104
- 2 平等主義論争 109
- 3 優先主義 112
- 4 十分主義 116

第7章 再分配は自由を侵害するか————— 121

- 1 古典的リベラリズム 121
- 2 古典的リベラリズムの復権 123
- 3 リバタリアニズムの正義論 128
- 4 左派リバタリアニズム 132

第2部 フロンティア

第8章	貧困と格差	139
1	国内の貧困と格差	139
2	正義論との関係	144
3	グローバルな貧困と格差	146
4	先進国市民の倫理	147
5	グローバルな制度の正義	150
6	否定論と懐疑論	153
第9章	家族と教育	157
1	正義の場所としての家族	157
2	家族と教育——家族内の問題	159
3	家族と教育——家族間の問題	161
4	家族の価値	167
第10章	医療と健康	172
1	健康の価値と医療への普遍的アクセス	172
2	QALY と功利主義	174
3	健康格差と正義	179
第11章	死 刑	188
1	死刑制度に関する事実	188
2	死刑存続論の検討	190
3	死刑廃止論	199

第12章 戦争 209

- 1 戦争と正義 209
- 2 集合主義と還元主義 212
- 3 独立説と依存説 215
- 4 正戦論はどこに向かうのか 219

第13章 人口 223

- 1 共有地の悲劇と救命艇の倫理 223
- 2 人口抑制の道徳的是非 226
- 3 非同一性問題 229
- 4 いとわしい結論 231

第14章 地球環境 237

- 1 気候変動という脅威 237
- 2 さまざまな原因 239
- 3 国際社会の取り組みと日本での懐疑 242
- 4 グローバルな分配的正義 245
- 5 将来世代への義務と過去の排出への責任 249

引用・参考文献

人名索引

事項索引